

イントレピッド・フォックス アレンジメンツ  
『パイ・砂田知宏』  
『グローバル・ジャズ・オーケストラ』

ビクター(Bell) BELL-0806

エルにて録音

1. 2. ソース・3. スネークス 4. 5. ムード・スウィングス 6. セント  
『グローバル・ジャズ・オーケストラ』、古音光広(1st)、高橋友道(2nd)、横尾品二郎(3rd)、内藤保章(4th)、大島一郎(5th)、佐竹ひろみ(6th)、奥村英里(7th)、森下浩平(8th)、子(perc)、砂田知宏(arr)

## アレンジ譜をバンドが演奏

などで活躍したピアニスト知宏が、アマチュア・バンドの参考演奏CD。『グローバル・ジャズ・オーケストラ』の活躍を参考にする方も多くある。アレンジは高度過ぎず、演奏しているメンバーが上手で、聴きやすい。演奏しているメンバーが上手で、聴きやすい。演奏しているメンバーが上手で、聴きやすい。

**「森 BOX」**  
森

ビクター VIZL-314  
¥14,700 12/17  
(3CD+DVD+写真集+グッズ)  
※限定2000セット

■Disc 1 CD: ニュー・アルバム『アンビチウス』: 1. ビュー・ニュース 2. やうらん 3. アリガト 4. レッド・スピリット 5. フォーカス 6. ファンクション 7. 平年 8. 8月 9. 8月の5月 10. 10月の5月 11. Passio 12. 真実  
■Disc 2 DVD: 『オーケストラ』: 1. AI Ave 2. Fuga 3. monie 4. オブ・ノヴァ 5. ハイ 6. フラクション・プリンセス 6. トルコ行進曲 7. ソラ・カラ・ミタカ 8. Eumelus 9. Borque Yemeno 10. モーニング・ビーンズ 11. エア・イズ・オブ・フォレスト 12. 真実0000000000000000 13. チョコレート ※特典映像  
■Disc 3 CD: 『メリー・クリスマス』: 1. Merry Xmas & A Happy New Year (歌と伴奏) 2. 真実 3. 小学校少年合唱団  
■Disc 4 CD: 『メリー・クリスマス』: 『オリジナルCD』: 『オリジナルCD』: 『オリジナルCD』

## 売れっ子の奇才集団が仕掛けるビックリ箱

日本のポピュラー音楽界に欠かせない実力派ミュージシャンが集まった「森」という集団は、まず2005年の登場からしてDVDというメディアを使ったサブライズだったし、その後多忙な人たちがスケジュール調整できるはずもなからうとトカを括っていたのにツアーはするわアルバムは作るわの活動を継続して、どうとう今回はBOXなる兵器を携えて現われた。限定2,000セットで用意されたこの「森の箱」は、1年9ヶ月ぶりとなるオリジナル・アルバム『AMBITIOUS』に続いて2008年6月のライヴを収録したDVD、さらにファンにはおなじみのおまけ企画がテンコ盛り、箱からはみ出しそうなくらい濃い内容だ。でもサウンドは、優しいんだけど。(富澤いいち)

**「オルガン CLUB」**  
ブルー・スミス

CCRE(Blue Smith) CCRK-0002  
¥2,940 12/10

■1. セヴンス・ヘヴン・ブギー 2. K・トゥ・K 3. B・アンド・R 4. オーガニック・スワンプ 5. A・ドモ 6. リンピック・システム 7. マシン・マシーン 8. ビー・フラット・ファンク 9. ライフ 10. A・ホワイター・シェイド・オブ・ペイル ■ブルー・スミス(organ), ゲスト: 田中知之(ファンタスティック・プラスティック・マシーン)、松浦俊夫、DJ YAS、デックス・ピストルズ、ビル・ラズウェル、他

## Blue Smith(a.k.a KANKAWA)によるクラブ・リミックス音源

Blue Smithと改名したオルガン奏者KANKAWAによる、こちらは2作品同月発売のクラブ・リミックス盤。Blue Smithは世界中の最優秀なリミキサーとコンタクトがあり、今回は松浦俊夫、田中知之、ビル・ラズウェルといった常連となるリミキサーの他に、多くの現在進行形の新しい才能を集結させている。KANKAWAとしてのこの10年間は、日本発ジャズ・バンドを標榜した即興グルーブの追求だったが、今作ではドイツの電子音楽演奏集団クラブワークと、ブルースとクラシックに根差した英国バンド、プロコルハルムの楽曲をカヴァーするなど、改名を機にポップさも意識したクラブ系として新たな方向に踏み出している。(松永誠一郎)

**「バッハ・ジャズ」**  
ニュー・ロマン・トリオ(松本茜+山下弘治+松尾明)

コロムビアミュージック(J-room) COCB-53782  
¥2,415 12/24

■1. メヌエット・長調 BWV Anh.114 2. トッカータとフーガ二重奏(BWV.565) 3. 主人の望みの喜びよ(BWV.147) 4. ロンド鹿のガヴォット(無伴奏ヴァイオリンのバリエーション第3巻) 5. G線上のアリア 6. シチリアーナ(フルート・ソナタ(BWV1031)) 7. フランデンブルク協奏曲第5巻 8. コラール「音響めよと呼ぶ声があるよ」(BWV645) 9. 無伴奏チェロ組曲第1巻(BWV1007)プレリュード 10. アヴェ・マリア ■松本茜(p)、山下弘治(b)、松尾明(ds)

## ジャズ・エッセンスが濃厚に香るバッハ作品集

2008年5月『フィニアスに恋して』でCDデビューを果たした新進気鋭のピアニスト松本茜。芳紀まさに21歳という若さの彼女が、それから半年余の間に企画作品とはいえ、2作同時リリースという離れ業をやっていた。しかもその内の1枚にあたる本作は、バッハという偉大な作曲家を題材とした作品というからさらに驚き。とは言うものの、演奏自体には大作にありがちな負いは些かも感じられず、スタンダード曲「飾りの付いた四輪馬車」を思わせる軽快な④をはじめ、ジャズ・エッセンスが濃厚に香る彼女らしいピアノをたっぷり聴かせてくれる。中でも極めつけは⑩。リズム陣の健闘も光り、アーマッド・ジャマル・トリオを彷彿させる寛ぎ感を醸し出す。(早田和音)

**「ネイチャー・ボーイ」**  
若松孝

ヤングロウミュージック WKMT-0320  
¥2,000 発売中  
2007年8月~2008年3月・阿佐谷「マンハッタン」、新宿「J」ライヴ録音

■1. チェルシー・ブリッジ 2. ステイルメイズ 3. ネイチャー・ボーイ 4. イェスタテイズ(Take 1) 5. イェスタテイズ(Take 2) 6. タイガ 7. フィニアス・オブ・ユール ■若松孝(ts)、永井隆雄(p)、林正秀(b)、橋本学(ds)、ウィリアムズ浩子(vo)、橋直幸(p)

## バンドの雰囲気そのままパッケージした極上のライヴ盤

ノックから、乾いた音色の心地よいスウィング・テナーが聴こえてくる。ヴェテラン・テナー奏者、若松孝が2007年に続いてリリースしたセカンド・アルバムは、ここ2年でレコーディングした音源をまとめたライヴ・アルバムとなった。自身がよく出演している店ということもあってかバンドもリラックスした雰囲気、バラッド〜ミディアム・テンポのスタンダードを中心に演奏。エンディングまで「雰囲気」の良しブレイをじっくりと堪能できる。各人のプレイと、アレンジで聴かせるこういう武骨でシンプルなコンセプトのライヴ・アルバムも、最近探そうと思うとなかなかないもの。長い夜に、ゆったりと楽しみたい。(御子柴亮輔)

**「バカラック」**  
ニュー・ロマン・トリオ(松本茜+山下弘治+松尾明)

コロムビアミュージック(J-room) COCB-53782  
¥2,415 12/24

■1. 雨にぬれても 2. ニュー・ヨーク・シティ・フィー 4. 意の影(ルック・オブ・ラヴ) 5. 6. サンホセへの道 7. 小さな願い 8. ワーク・カナル 9. 10. 世界は愛を求めている ■松本茜(p)、松尾明(ds)

## 若きポップ・ピアニストによるバート・バカラック集

『フィニアスに恋して』に続く松本茜のデビュー作。ドラマの松本茜の、バカラックとバッハの2代からジャズ・ピアノの逸材と噂にだけに、ジャズが好きだ! とイレクトに伝わる手馴れた演奏がバカラック集は、ポップな楽しさ、ディバカリなので、その楽しさが出てくるようで、誰が聴いても楽しだ。遊びが少ないかもしれないが、ないところが特長味と言いたい。ジャズと向き合っていることがよく伝わってくる。ロマンティック、彼女の方向も見えてくるだろう。

**「ライヴ・ウィズ・シュ・アゲ」**  
安保徹

ホワッツ・ニュー(What's New) WNCJ-21  
¥3,200 12/17  
1998年6月30日、東京、六本木「バッシュ」ライヴ録音

■Disc 1: 1. ラヴァー・カム・バック・トゥ・ミッド 3. アンフォゲッタブル 4. タッド 5. アンブレ・ユール・グッド・シー・ミー・ナウ 7. ザ・ブ 1. オール・ザ・シングス・ユー・アー 2. エロネル・チュロ 4. レッド・ローゼス・フォー・ア 5. アイ・シュッド・ケア 6. ウィー 7. ハッピー・オブ・ノー・ネア ■安保徹(ts)、太田寛二(p)、太田寛一(ds)、ゲスト: 竹田直也(vb)

## ヴェテラン・テナー奏者による伝説的ライヴのコンプリート盤

安保徹のデビュー作となった、ジャズ・クラブBASHにおけるライヴの盤。1999年に本作の元となった「ライヴ・ウィズ・シュ・アゲ」が発売されたときも、当時、その圧倒的な存在感に脱帽した。以来、ことあるごとに聴いてほしいとされた他の曲もぜひ聴きたいと思える。ズ・ファンは、僕だけではないだろうにこの完全版の発売は実に嬉しい。下を抜群のグルーブで真正面から安保徹は、聴くたびにワクワクさせられる。にかく、この外連味のなき堂々たるプレイは、聴く者の心をとらえること必須。ナー・ワン・ホーン・アルバムの傑作